

メバチ 大西洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

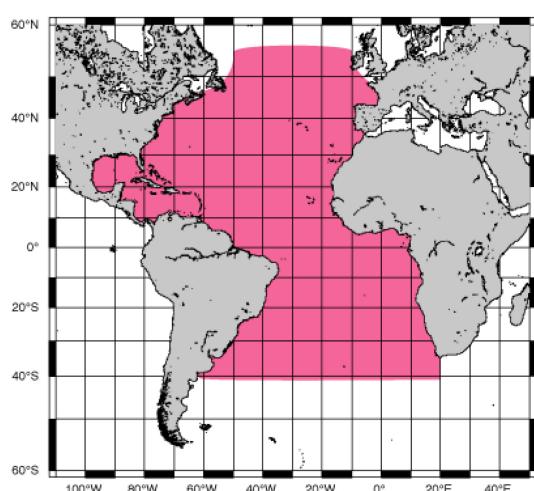
- 体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：10～15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳（120 cm で大部分が成熟）
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のまぐろ類よりハダカイワシ・ムネエソなどの中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のまぐろ・かじき類、さめ類、鯨類

利用・用途

刺身、すし、缶詰などに利用されている。

漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が FAD 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。



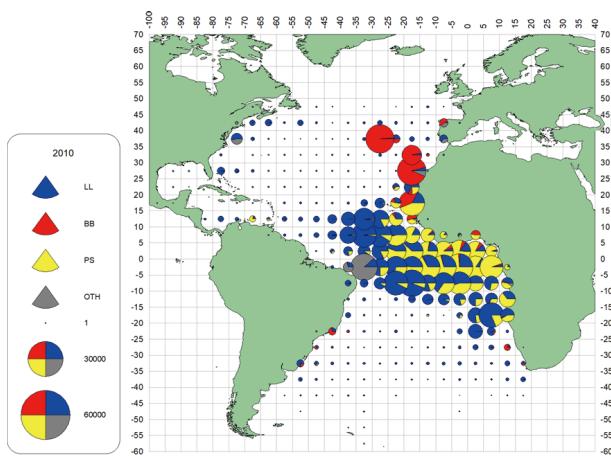
大西洋におけるメバチの分布

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 7 万～8 万トンで推移し、2017 年の総漁獲量は 7.8 万トン（予備集計）で前年に引き続き TAC (6.5 万トン) を大きく超過した。2016 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分弱 (45%) であり、まき網の漁獲 (36%) が近年増加傾向にある。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

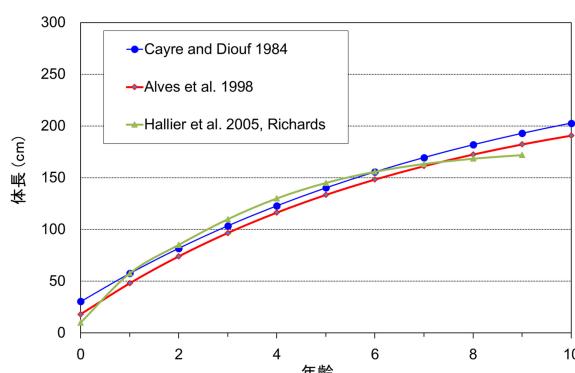
資源状態

ICCAT の科学委員会は、2018 年に資源評価を実施し、SS3 による結果を管理勧告に用いた。結果として、MSY : 7.3 万～8.0 万トン（中央値 7.6 万トン）、 F/F_{MSY} : 1.14～2.12（中央値 1.63）、 SSB/SSB_{MSY} : 0.43～0.80（中央値 0.59）と推定され、資源状態は乱獲状態および過剰漁獲とされた。2018 年時点の TAC (6.5 万トン) を維持した場合、2033 年に資源が乱獲状態および過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 44% とされた。



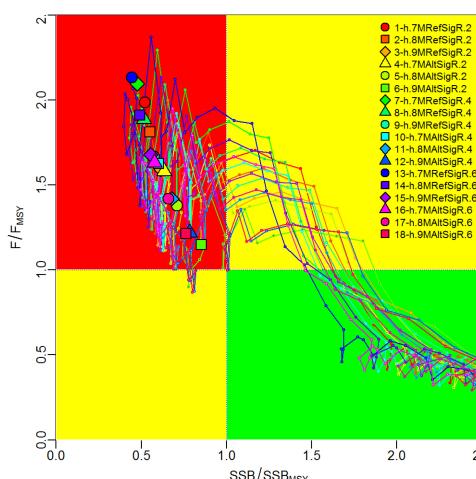
主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布（2010～2016 年）

青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、白：その他。凡例の丸は上から 30,000 トン、60,000 トン。

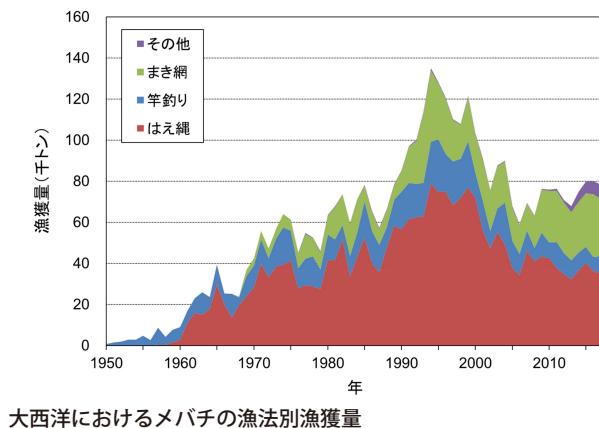


標識放流 (Cayré and Diouf 1984)、脊椎骨 (Alves et al. 1998) および耳石 (Hallier et al. 2005) から推定されたメバチの成長式

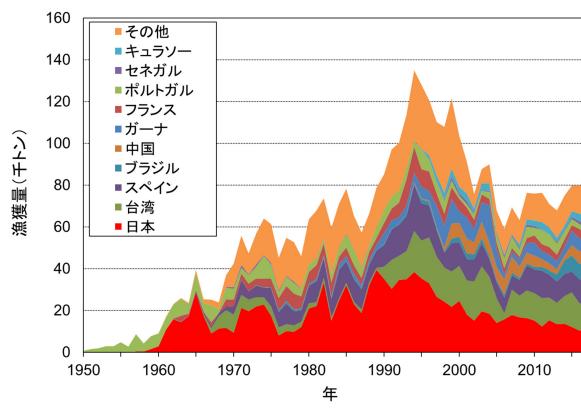
管理方策	
<p>2015 年の ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した（2016 年一部改訂）。漁獲能力制限として、主要漁業国のはえ縄およびまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制定されている。毎年の TAC は 6.5 万トンに設定し、各国に漁獲枠が割り振られている。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における FAD を含めた付き物操業の禁漁期、禁漁区域は、2015 年の年次会合で変更され、若干拡大（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域において、1 月 1 日～2 月 28 日。2017 年 1 月から適用）された。同禁漁期／区で操業するまき網や竿釣り船には、引き続きオブザーバーの乗船が義務付けられている。また、FAD 数を 1 隻当たり一度に 500 基までとする。2002 年 4 月から、統計証明制度（輸入には漁業国の証明書が必要）が開始されている。</p>	



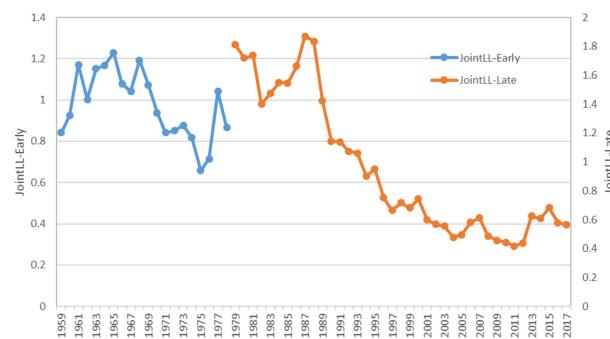
統合モデル (SS3) 18 シナリオで推定された SSB/SSB_{MSY} と F/F_{MSY} の経年的プロット



大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量



大西洋におけるメバチの国別漁獲量



資源評価ベースモデルに用いた資源量指標（日本・韓国・米国はえ縄複合 CPUE）

メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.8 万～8.0 万トン 最近（2017）年：7.8 万トン 平均：7.7 万トン (2013～2017 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.0 万～1.4 万トン 最近（2017）年：1.1 万トン 平均：1.2 万トン (2013～2017 年)
管理目標	MSY：7.2 万～8.0 万トン (中央値 7.6 万トン) (2017 年の漁獲量：7.8 万トン)
資源評価の方法	統合モデル（Stock Synthesis）による解析：はえ縄漁業 CPUE、および漁獲動向などにより水準と動向を評価
資源の状態	F/F _{MSY} =1.14～2.12 (中央値 1.63) SSB/SSB _{MSY} =0.43～0.80 (中央値 0.59)
管理措置	TAC (6.5 万トン：2019 年)、主要国のはえ縄漁業枠の設定 ギニア湾（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域）における 1 月 1 日～2 月 28 日の FAD 操業禁漁期設定、FAD 数制限 統計証明制度 オブザーバー乗船（まき網、竿釣り）
最新の資源評価年	2018 年
次回の資源評価年	未定